

朝の空気が冷たくなりました。大規模な都市再開発地域の真ん中を通る大きな街路に面して私たちの園があり、昔から町内にあった「お大師さん」が路に向かつてまつられています。

定規を当てて描いたような高層建築物の並ぶ景色の中でも、落ち葉の季節がやってきました。夏の日差しをやりわらげた街路樹の葉が役目を終えて歩道に広がります。朝、園とお隣さん（といってもマンションですが）の前の少しを掃除、散水（水やりと犬の糞尿を洗い流す）します。

早朝、ジョギング、ウォーキングと犬の散歩の人、次に出勤を急ぐ人、小学生…と、人がたくさん通ります。その間、園児たちも徐々に増えて「お早うございます」「いつてらっしゃい」と声をかけます。そのうちに、いつも通る人たちとも声をかけ合うようになりました。やがて急に人も自転車も少なくなると、お年寄りや体の不自由な方々が散歩に出てこられます。ときの流れが緩やかになるような心地になります。表を掃除しはじめて、通りがかりに「お大師さん」に手を合わせる人が増えました。お年寄りだけでなく出勤途中の人も保護者の方も…：。いつの間にか歩道のゴミも随分少なくなり、まるで皆さんが子どもたちや保育園を見守ってくれているようで、ありがたく思っています。

さて、現在、共働きの家庭が急速に一般化し、待機児解消が急務となっています。このことは、遠からず国民の多くが保育園出身者になることを意味します。だからこそ見すごせないのは、大半の子（いい換えれば、次代の国民の多く）がその乳幼児期を過ごす環境の質の問題です。

子育て装置としての保育園の最低基準について議論が続いています。見直しを主張するなら、どんな子に育つてほしいのか、育ちへの影響について客観的な根拠をもとに、子どもたちの将来も見つめて十分に論じてもらいたいものです。さらに最も必要を感じるのは、安全と安心を提供し、愛情豊かで熱意とセンスをもった人的環境です。地域や家庭での成長の（刺激を受け

風

「今」を大切に

大阪府大阪市・阿さひ保育園園長
青地正壽

なくなつたとき、異変を感じたのです。従前に比べて子どもたちが落ち着かず、少し大きさにいえば、子どもも職員も大声で叫び合っているような状態が増えたように思いました。その後、一部増築し、床面積を増やしたことでかなり解消されたように感じました。今思えば、怪我の頻度も少なくなつたと感じています。皆さんの園では、いかがでしょうか。

（機会を制約されて育つ乳幼児期の子どもたち、保護者と協力して将来の人格のもとを培うようにかかわるのは大変なことに違いありません。保護者も私たちも、その子なりの「幸せ」を願うのですが、その実現のために「幸せになる能力」（愛情豊かに育てられるときに醸成される性格傾向？）を身につけさせたいのです。何はともあれ、「今」を大切にしましょう。